

普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)2月20日
所属名：高島農産普及課
番号：H22015
部門分類：425(集落営農)
発信者名：中井

集落営農法人がワークショップを開催

農事組合法人エコファーム永田（耕作面積52ha、構成員20戸）では、担い手づくりや作業の効率化を図ることを目的に1月21日（土）に若手や女性も参加してワークショップを開催し、法人の抱える問題点の洗い出し、解決方法について話し合いを行いました。

（農）エコファーム永田は、平成29年2月に設立され6年が経過しました。6年間で見てきた課題は、法人の収益が現状黒字になっているものの、今後の見通しが立たないこと、役員やオペレーターの過半が70歳代となり、次世代の育成が急務となっていることです。そこで今後の組織や営農の在り方についての課題を共有し、意見交換を行うことを目的として、法人の関係者を集めてワークショップを開催しました。

若手のオペレーターや女性にも参加を呼びかけたところ16名が出席され、3グループに分かれて「担い手づくり」「作業の効率化」をテーマにグループワークを行いました。

講師の愛知大学地域政策学部の藤井教授に、グループでの話し合いや発表について助言いただくとともに、集落営農の状況や抱える課題、各地での取組事例について紹介いただきました。

ブレインストーミングという手法を取り入れたことで、若手や女性の意見も含め、様々な意見・アイデアが出されました。代表理事は「日頃、営農にかかる作業は皆で一緒に行っているが、ゆっくり話す機会を持っていなかった。ワークショップでそれぞれの思いを話すなかで、前向きな気持ちになり、改善できそうなことも見つかった。」と話されました。

定期的に話し合う場を設けていこうと、3月に開催される総会で、第2回目のワークショップを企画されています。

次年度は、具体的な人材確保や組織体制（集落ぐるみ方式か、専従者方式への転換か）の検討を行う予定です。当課は、引き続き、集落の方向性を定めるビジョン策定を支援していきたいと考えています。



グループワークを行う参加者



藤井教授による事例紹介